

2021年度 文学部・人間科学部

「授業に関する学生アンケート調査」

報告書

目次

1. はじめに 調査の概要と結果のポイント
2. アンケート質問項目
3. 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況
4. 学生の勉学状況
 - (1) 成績分布
 - (2) 学習時間
 - (3) 読書習慣: 傾向頻度
 - (4) 読書習慣: 学年別学科別傾向
5. オンライン授業に関する自由記述
6. おわりに

2022年 6月

文学部・人間科学部 FD委員会

1 はじめに 調査の概要と結果のポイント

文学部及び人間科学部の「授業に関するアンケート調査」は、2000年度から毎年実施している。調査の対象としているのは文学部および人間科学部の専任教員（特任教授、助教を含む）であり、各教員には前期・後期の授業からそれぞれ1科目以上でのアンケート実施を依頼した。アンケート実施期間は、前期は7月7日(水)から7月23日(金)までの3週間、後期は12月1日(水)から12月23日(木)までの4週間とし、in Campusのアンケート機能を利用した。

アンケート実施科目は当該教員が担当する専門科目のうち履修者が最も多い講義科目を抽出して原案とし、教員の申し出によって変更及び追加を行った。そのため若干の実習科目も含まれている。必修、選択の別では、選択科目が全体の約92.6%を占める。

対象教員数は前期102名、後期103名、実施科目数は前期130科目、後期126科目、合計256科目であった。アンケート対象学生の延数は前期9,133人、後期8,335人であり、実際に得られた回答数はそれぞれ2,364、2,006であった。回答率は前期、後期それぞれ25.9%、24.1%であった(【表1】)。概して回答率が低いことがこの調査の課題とするべきところであるが、回答率が10%に満たない授業は1割と昨年度と変化はなかった(【表2】)。

アンケート調査の結果からは、授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られている一方で、「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような授業内の仕掛けについてはやや低い評価となっていることがわかる。学生が自発的に学習する習慣を身につけていない状況が推測されるが、それは回答された学生の授業外学習時間が少なくなっていることからわかる。授業外学習を行うための必須作業である読書についても、習慣がほとんどない学生も一定数見られている。

現状においては授業そのものに対する満足度は高く、学生の知的関心に答える授業が提供されていると判断して良い。ただし、授業内で学生が満足して終わっている懸念もある。学生の授業外学習が定着していないのはそれを求める「文化」が学内に十分醸成されていないという背景要因があるとしても、個別の授業の中で授業の予習・復習が必須であると履修者に感じさせる授業運営の工夫や仕掛けが一層なされてもよい。

【表1】 アンケート実施の状況

	前期	後期	前期後期の合計
対象教員数	102	103	
実施教員数	102	103	
実施率	100.0%	100.0%	
実施科目数	130	126	256
アンケート対象学生述べ数	9,133	8,335	17,468
アンケート回答数	2,364	2,006	4,370
回答率	25.9%	24.1%	25.0%

【表2】 回答率の分布(科目単位)

回答率	科目数	比率	累積比率
10%	15	5.86%	5.86%
20%	101	39.45%	45.31%
30%	71	27.73%	73.05%
40%	24	9.38%	82.42%
50%	13	5.08%	87.50%
60%	12	4.69%	92.19%
70%	9	3.52%	95.70%
80%	2	0.78%	96.48%
90%	2	0.78%	97.27%
100%	7	2.73%	100.00%
合計	256	100.00%	

2 アンケート質問項目

質問項目は例年通りの16項目とした(【表3】)。Q1からQ8については「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で回答、Q9については〈4時間以上〉〈1時間以上4時間未満〉〈30分以上1時間未満〉〈30分未満〉〈全くしていない〉から1つを選択させた。Q10については〈①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない〉の7項目を選択肢とし、複数回答を可とし、Q11とQ12は自由記述とした。今年度は例年の12項目に加えてコロナ禍におけるオンライン授業に関するアンケ

ートを4項目設け、自由記述で記入させた。

【表3】 「授業評価に関する学生アンケート」 質問項目

No.	項目	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
Q1	授業にはほとんど出席し、積極的に参加した。						〈出席状況〉
Q2	この授業はわかりやすかった。						〈明解さ〉
Q3	授業内容は体系的であり、よくまとまっていた。						〈体系性〉
Q4	この授業は知的魅力(面白さ)のあるものであった。						〈知的魅力〉
Q5	この授業は自分の学習にとって有益だった。						〈有益度〉
Q6	学生の理解度や反応に配慮した授業の進め方がなされていた。						〈理解度への配慮〉
Q7	自発的に学習・探求するための指針や助言をこの授業から得ることができた。						〈自発的学習の促進〉
Q8	授業に対する教員の熱意を感じた。						〈教員の熱意〉
No.	項目	4時間以上	1時間以上4時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	全くしていない	
Q9	この授業のために授業時間外で学修した時間(一週間平均)。						〈一週間の学習時間〉
No.	項目	選択肢					
Q10	最近3ヶ月で読んだものすべてにチェックを入れてください(複数回答可)。	①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない					〈読書習慣〉

- Q11 この授業を受けて有益だった点があれば書いてください。 自由記述
 Q12 授業をより良くするために工夫できることがあれば書いてください。 自由記述

オンライン授業に関するアンケート

- Q13 Google Classroom, Google Meet を使用して感想があれば書いてください。 自由記述
 Q14 オンライン授業でよかった点について書いてください。(授業内容について) 自由記述
 Q15 オンライン授業で不安を感じる点について書いてください。(授業内容について) 自由記述
 Q16 「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点があれば書いてください。 自由記述

【表4】 学科・学年別回答状況

学科	1年次	2年次	3年次	4年次以上	合計
経済			4		4
現代経済	3	2			5
生活環境経済	7				7
国際経済	2	6	1	1	10
法律	1	1	1		3
政治		3			3
経営	1	3	1		5
マーケティング	8	5			13
会計	6		1	1	8
日本語			23		23
日本文学文化	150	302	126	17	595
英語英米文	74	467	258	6	805
哲	99	86	60	2	247
歴史	316	209	109	2	636
環境地理	71	101	30		202
人文・ジャーナリズム			10	1	11

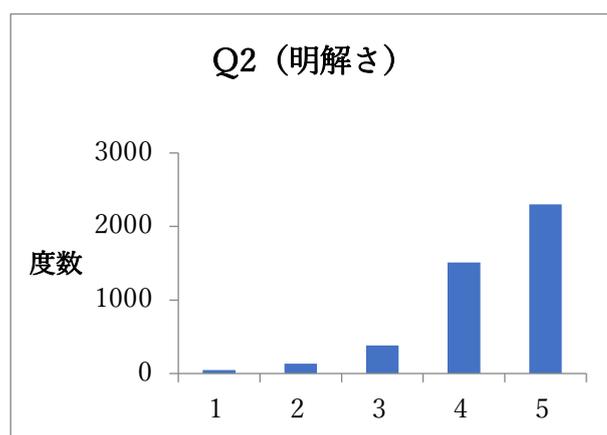
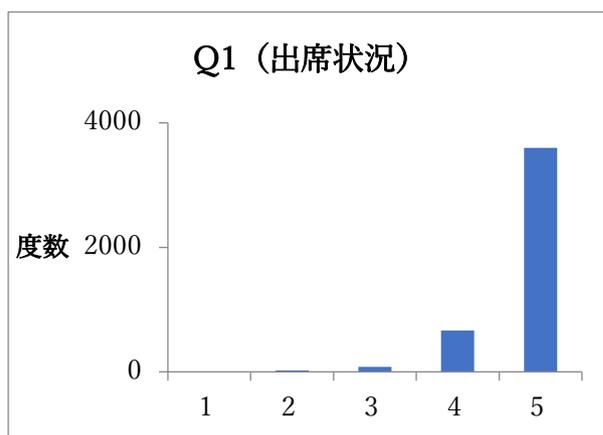
ジャーナリズム	88	164	96		348
ネットワーク情報	3	1	5		9
心理	48	277	100	4	429
社会	283	509	211	2	1005
日本語	1	1			2
合計	1161	2137	1036	36	4370

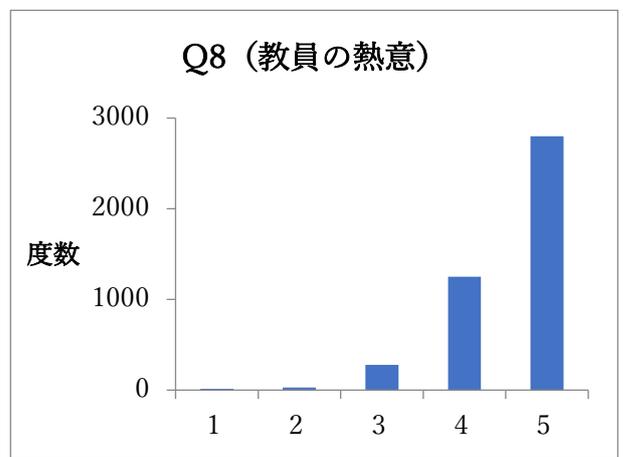
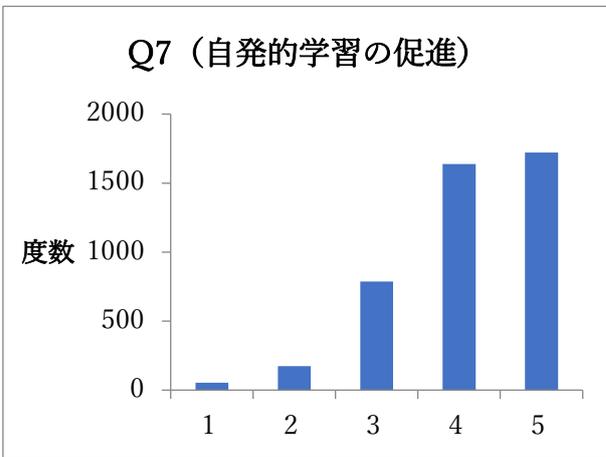
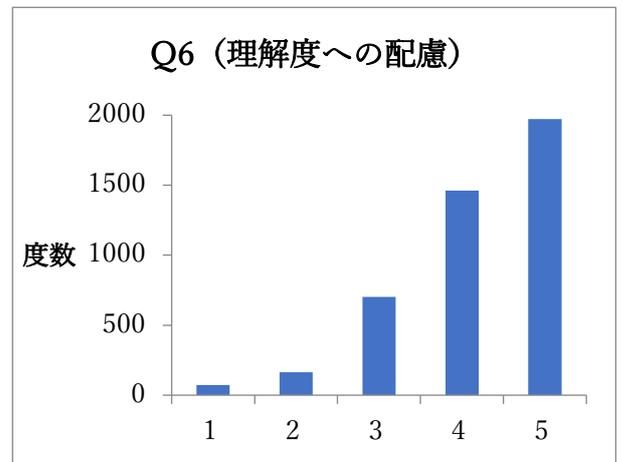
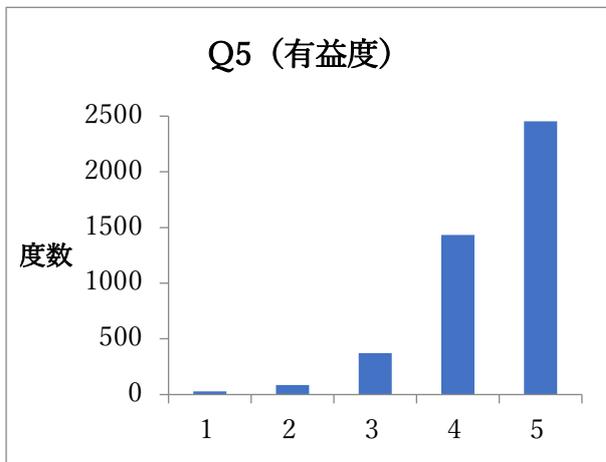
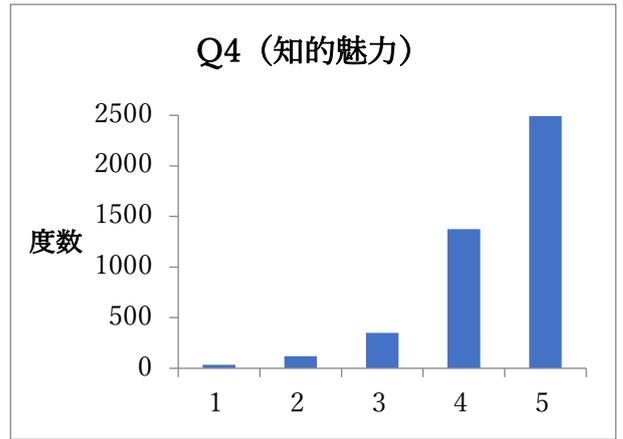
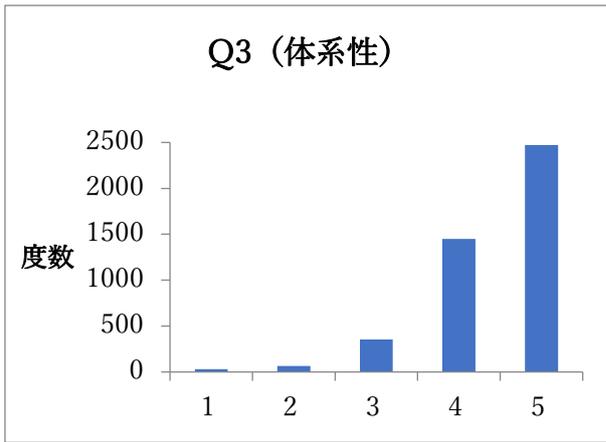
3 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況

学科、学年別の回答状況は上記【表4】の通りである。文学部と人間科学部以外の学生の回答が少数存在しているのは、全学公開科目などが含まれているからである。4年生の回答が少なく2年生を中心に回答数が多くなっているというのは、どの学科にも共通する特徴である。

各質問項目への回答状況は【図1】の通りである。回答の内容を数値化して平均値を見たのが【表5】である。授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られている。一方で「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような仕掛けについてはやや低い評価となっている。回答した学生自身の出席状況は回答値から見る限りは高いので、学生は授業には出席するがその次の段階には進み難いという状況にあるということのようである。

【図1】 各質問項目への回答 Q1～Q8





1「あてはまらない」、2「どちらかといえばあてはまらない」、3「どちらともいえない」、4「どちらかといえばあてはまる」、5「あてはまる」

【表 5】 各質問項目の回答値の平均値・標準偏差

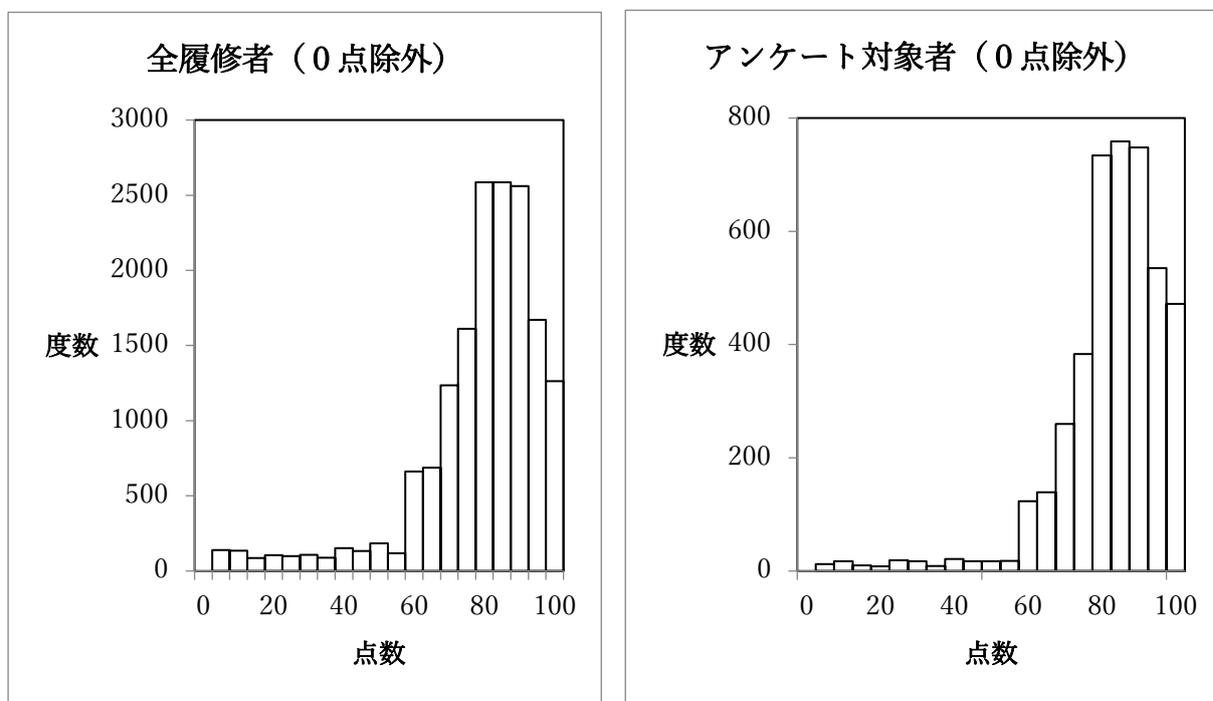
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
平均値	4.79	4.35	4.43	4.41	4.42	4.17	4.10	4.55	3.00
標準偏差	0.49	0.84	0.76	0.81	0.78	0.94	0.91	0.67	1.01
回答者数	4,370	4,370	4,370	4,370	4,370	4,370	4,370	4,370	4,370

4 学生の勉学状況

(1) 成績分布

回答した学生が授業に積極的に関わっている学生であることはありうるとしても、回答した学生群が必ずしも高成績を取める学生に偏しているわけではないことは【図 2】で知ることができる。【図 2】は当該科目の全履修者と回答学生の成績分布を示したものだ。全履修者の「0」点にはレポート提出そのものをしていない学生や履修を断念した学生が多く含まれているため、0点除外で比較した。全履修者と回答学生の成績分布は類似しているが、全履修者を比較して、回答者の中で50点以下の学生が減少している傾向がある。

【図 2】 履修者及びアンケート回答者の成績分布

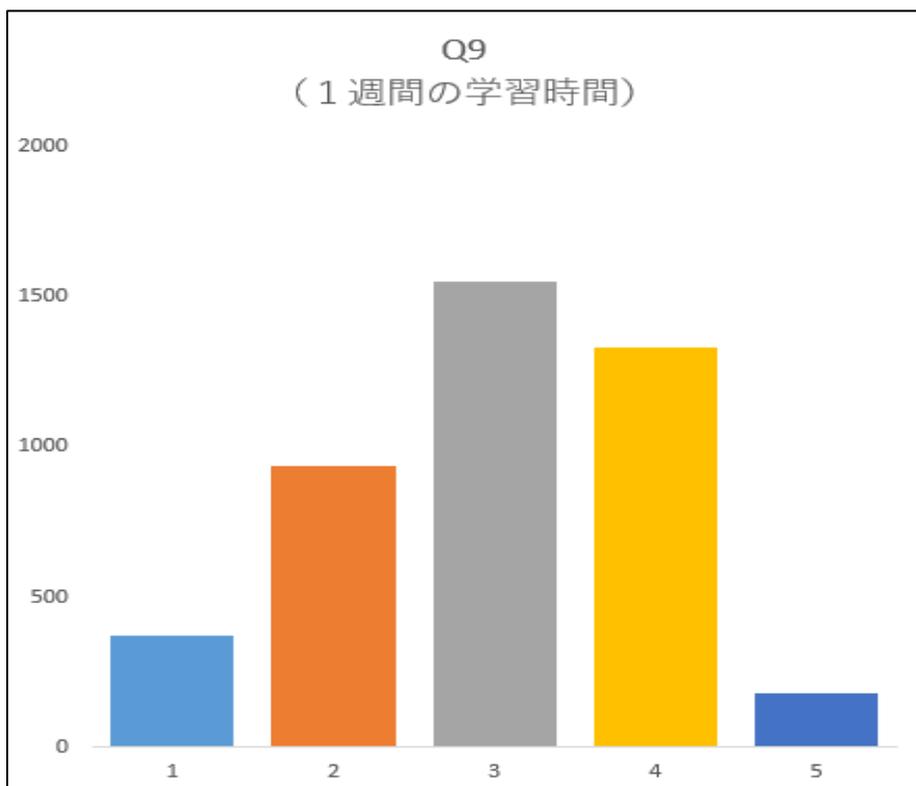


(2) 学習時間

授業には出席しているものの自分自身の学習がその先に進まない学生の状況は、学生の1週間の学習時間にも顕著に見て取れる。【図3】は1週間の授業外学習の時間をまとめたものだ。1週間の授業外学習が1時間に満たない回答者を合計すると6割以上を占めている。一昨年に比べ、「全くしていない」と回答した学生は1,000件以上減少し、昨年と比べるとあまり差がなかったことを考えると、オンライン授業が主体だったことが影響している可能性がある。

大学の単位制度は1単位当たり45時間の学習を想定する(大学設置基準第2条)のものであり、したがって1科目につき毎週3時間の授業外学習の確保が想定されている。現状との乖離は大きいといわなければならない。

【図3】 1週間の学習時間



1 = 全くしていない、2 = 30分未満、3 = 30分以上1時間未満、4 = 1時間以上4時間未満、5 = 4時間以上

(3) 読書習慣： 傾向頻度

授業外学習の実質的な作業は主として読書である。授業外学習の習慣を身につけるにはまずは読書習慣を身につけることが肝要となる。

「アンケート調査」では学生の読書習慣について尋ねている。授業の参考書も含めて最近3ヶ月に読んだものについて複数回答可で尋ねた結果が【表6】である。選択肢は「授業の参考書」、「マンガ」、「学術書・学術論文」、「文芸作品」、「新聞」、「その他」、「全く読んでいない」の7つである。選択肢中の「授業の参考書」は必ずしも当該授業のものに限定されてはいない。

約6割の学生が何らかの「授業の参考書」を、また同じく約半数の学生が何らかの「学術書・学術論文」を読んでいるが、逆に言えば、約半数の学生は学術書や参考書は手にとっていないということでもある。なお、約4%の学生は、比較的多くの回答者が手にとっている「マンガ」や「新聞」も含めて全く読書習慣がないとしている。

【表6】 読書習慣の各選択肢の選択率

種類	比率
授業の参考書	60.6%
マンガ	54.5%
学術書・学術論文	55.1%
文芸作品	42.3%
新聞	37.0%
その他	11.9%
全く読んでいない	4.3%

(延べ学生数、N = 4,370)

(4) 読書習慣： 学年別学科別傾向

読書習慣の傾向には学年別学科別の特徴が見られる。学年別の傾向をまとめたのが【表7】である。「新聞」と「学術書・学術論文」は学年が上がるにつれて増加している。4年次の「マンガ」は昨年度から大幅に増加した。その他の項目については比較的例年通りの数値となっている。

学科別傾向をまとめたのが【表8】である。「新聞」がよく読まれているのが

LZ・LMで、「学術書・学術論文」が多いのはLR・HPである。「文芸作品」と「マンガ」はLB・LZが多い。「学術書・学術論文」や「文芸作品」が読まれる頻度には学科間に大きな差が見られるが、「授業の参考書」や「マンガ」はどの学科でもコンスタントに読まれている。

【表7】 学年別の読書習慣

種類	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次以上
新聞	35.7%	37.2%	38.1%	41.2%	0.0%
学術書・学術論文	52.5%	55.6%	56.8%	58.8%	50.0%
授業の参考書	60.0%	63.1%	56.0%	61.8%	100.0%
文芸作品	43.2%	41.6%	42.1%	61.8%	100.0%
マンガ	55.7%	52.6%	56.4%	76.5%	50.0%
その他	14.2%	10.4%	12.1%	14.7%	0.0%
全く読んでいない	3.5%	4.4%	4.7%	2.9%	0.0%

【表8】 学科別の読書習慣

種類	LG	LB	LA	LT	LR	LK	LZ	LM	HP	HS
新聞	47.8%	30.4%	27.1%	36.0%	34.1%	44.6%	54.5%	55.2%	19.6%	50.0%
学術書・学術論文	60.9%	43.5%	29.3%	52.2%	66.7%	69.3%	72.7%	45.7%	79.5%	66.9%
授業の参考書	73.9%	72.4%	56.6%	52.2%	53.3%	51.5%	81.8%	57.5%	64.1%	64.7%
文芸作品	56.5%	76.3%	43.4%	45.7%	35.7%	30.7%	72.7%	38.2%	37.1%	31.2%
マンガ	65.2%	74.8%	39.0%	58.7%	54.4%	38.1%	72.7%	58.3%	58.7%	53.6%
その他	8.7%	11.4%	13.2%	16.2%	14.6%	13.9%	18.2%	13.2%	7.5%	8.9%
全く読んでいない	0.0%	1.5%	7.1%	4.5%	2.7%	7.9%	0.0%	4.6%	7.5%	2.4%

日本語学科 (LG)、日本文学文化学科 (LB)、英語英米文学科 (LA)、哲学科 (LT)、歴史学科 (LR)、環境地理学科 (LK)、人文・ジャーナリズム学科 (LZ)、ジャーナリズム学科 (LM)、心理学科 (HP)、社会学科 (HS)

5 オンライン授業に関する自由記述

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの授業でオンライン授業を実施した。このオンライン授業について、自由記述を4項目設定し、Q13はGoogle Classroom, Google Meetを使用した感想、Q14はオンライン授業でよかった点、Q15 オンライン授業で不安に感じる点、Q16「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点を任意で記入させた。

Q13 (Google Classroom, Google Meet を使用した感想) では、総回答数 764 件のなかにメリット・デメリットの両意見が記載されていた。

Google Classroom や Google Meet については、資料や質問等を見返せる点から予習・復習が取り組みやすいなどの前向きな意見やブレイクアウトルームを利用したグループワークの実施に対しても、「他の人の意見や考え方を聞くことができ、自分にはない発想を知れて面白かった」や「視野が徐々に広がったように思う」など前向きな意見が見られた。一方で、画質が粗くなるや音声途切れてしまうといった通信環境などによる弊害を感じていることが読み取れる。また、資料の掲載方法については、メリットとして分類して投稿されていることや回ごとに必要な資料で分けて投稿されていると分かりやすいや見返しやすといった意見が挙がっていたため、資料の掲載方法を検討することが必要であると示唆される。

Q14 (オンライン授業でよかった点) では、資料などをいつでも読み返せるなど。復習に関する感想が多く記載されていた。また、チャットについても気軽に質問できる点や他人の意見も理解できる点などの記述がみられた。【表 7】で示した学年別学科別の読書習慣の傾向では昨年同様「授業の参考書」が増加しているという点はこの影響によるものと推測できる。

Q15 (オンライン授業で不安に感じる点) では、昨年同様、Q13 で挙げられた通信環境について多く挙げられている。そのほか、「課題」に関する意見も多く挙がっていた。課題については「提出で来ているのか不安である」や「多い」といった意見が多く見受けられた。

Q16 (「対面授業」と比較して「オンライン授業」でよかった点) では、「移動時間」に関する意見が多く挙げられていた。移動時間が無くなったことで時間の管理がしやすいや有効活用できるといった意見や、「オンラインでは課題が多く、少し大変ではあったものの、能動的に参加することが多く、対面授業よりも学びにしっかりと繋がった」といった前向きな意見が多く挙げられていた。また、「オンライン授業では、限定のコメントなどでいつでも気軽に教授に質問等行えるのが良い点」といった質問に関する意見も挙げられており、質問を受け付けるための体制も整えることが重要である。

6 おわりに

現状においては授業そのものに対する学生の満足度は高く、学生の知的関心に応える授業が提供されていると判断してよい。1週間の学習時間が昨年度に比

べ、増加している点からオンライン授業となり、学生が自宅学習を積極的に行っていることが推測できる。この自宅学習時間を対面授業へ転換された後にも維持させることが今後必要となってくだろう。自由記述から見られたこれらの事柄について対応が必要である。資料の提示方法は科目特性によって異なるが、学生のニーズを把握し対応することが求められる。また、通信環境等により声が聞き取れないといった意見が多くみられたため、オンライン授業で学生に確認を行うなど適切な授業運営を行うことが求められる。